NEWS　RELEASE

挑戦の先に、新しい道がある。
広島修道大学
Hiroshima Shudo University

2026年10月15日

「Business Strategy and the Environment」誌に 本学商学部 徐 康勲 教授が共著した論文が掲載されました

国際ジャーナル「Business Strategy and the Environment」に、本学商学部 徐 康勲 教授が広島大学・高麗大学の研究者と共著した論文が掲載されました。

【本研究のポイント】

・高品質・高価格を志向する「プレミアム製品戦略」が、企業の環境面および経済面のサステナビリティ志向とどのように関係し、それが業績にどう結びつくかを、ステークホルダー理論の視点から検証した。

・東京証券取引所に上場する製造企業の海外事業担当役員・管理職 128 名への質問票調査データを、構造方程式モデリング（SEM）により分析した。

・プレミアム製品戦略は環境・経済両面のサステナビリティ志向を高める一方、経済的サステナビリティ志向は業績と正の関係、環境的サステナビリティ志向は業績と負の関係を示し、両者の間に短期的なトレードオフが存在することが明らかになった。

【概要】

研究内容

広島修道大学の徐 康勲 教授が、広島大学および高麗大学の研究者と共著で、海外展開を行う日本の製造企業を対象に、プレミアム製品戦略とサステナビリティ志向、企業業績の関係を実証的に分析しました。近年、プレミアム市場では、消費者、とりわけ若い世代が、ブランドの倫理的･環境的な取り組みを価格プレミアムの支払いの条件とする傾向を強めており、サステナビリティはプレミアム・ポジショニングの中核的要素となりつつあります。しかし、こうした製品戦略が企業のサステナビリティ志向をどのような方向に導き、業績にどのような帰結をもたらすのかについては、十分に検討されてきませんでした。また、多くの先行研究はサステナビリティを一つのまとまった概念として扱っており､環境面と経済面を区別した分析は限られていました。

本研究では、2023 年 7 月から 12 月にかけて東京証券取引所に上場する製造企業 1,200 社を対象に郵送調査を実施し、海外事業を担当する役員・管理職から得た 128 件の有効回答を分析しました。サステナビリティ志向を、エネルギー消費の削減や資源の再利用などに取り組む「環境的サステナビリティ志向」と、技術開発・製品改良・市場動向に合わせた新製品開発などに取り組む「経済的サステナビリティ志向」に区別し、プレミアム製品戦略から両志向を経て企業業績に至るモデルを構築・検証しました。

分析の結果、プレミアム製品戦略を追求する企業ほど、環境・経済の両面でサステナビリティ志向が強いことが確認されました。これは、プレミアム製品を手がける企業がステークホルダーからより高い期待と厳しい目を向けられており、その正当性を維持するためにサステナビリティへの取り組みを強めていることを示唆しています。一方で、業績への影響は両者で対照的でした。イノベーションや差別化、効率化を通じた経済的サステナビリティ志向は業績と正の関係を示したのに対し、環境的サステナビリティ志向は業績と有意な負の関係を示しました。環境への取り組みは長期的には評判やリスク低減に寄与し得るものの、PRTR 法やトップランナー制度など既に厳しい環境規制が存在する日本では、追加的な環境投資が短期的なコスト負担となり、市場で十分に評価されていない可能性があります。

本研究の結果は、プレミアム製品戦略を採る企業の経営者にとって、環境投資の実施時期や優先順位を慎重に見極めるとともに、環境への取り組みの長期的価値をステークホルダーに明確に伝え、サステナビリティ属性を価格や付加価値に結びつける工夫が求められることを示唆しています。

Abstract

Corporate sustainability has become a central concern for business stakeholders, yet little is known about how premium product strategies shape firms' sustainability orientations and performance. Drawing on stakeholder theory, this study examines whether pursuing premium products is associated with firms' adoption of environmental and economic sustainability orientations and how these orientations, in turn, relate to corporate performance. Using survey data from 128 directors and managers responsible for overseas operations in manufacturing firms listed on the Tokyo Stock Exchange, analyzed with structural equation modelling, we find that a premium product strategy is positively associated with both environmental and economic sustainability orientations. However, their performance implications differ: economic sustainability is positively related to firm performance, whereas environmental sustainability shows a significant negative association. These results suggest that, among Japanese manufacturing exporters, premium product strategies simultaneously foster sustainability ambitions and expose firms to short-term trade-offs between environmental and economic outcomes.

発表論文タイトル

When Premium Product Strategy Meets Sustainability: Environmental–Economic Trade-Offs in Japanese Manufacturing

著者

Kim, J., Seo, G.-H., Seo, E., Zhou, S., & Jeong, I. (2026)

論文へのリンク（DOI）

・https://doi.org/10.1002/bse.71659

雑誌

Business Strategy and the Environment（Wiley）

※ Journal Citation Reports（JCR）Q1、Impact Factor 13.2

研究助成
科学研究費助成事業 基盤研究(C) 課題番号 JP25K05427

以上

【本件に関するお問い合せ】
＜研究に関すること＞
広島修道大学　商学部　教授　徐 康勲
Tel：082-830-1102（総合企画課　広報担当）
E-mail：gseo@shudo-u.ac.jp

＜報道に関すること＞
広島修道大学　学長室 総合企画課　広報担当
Tel：082-830-1102
E-mail：kouhou@js.shudo-u.ac.jp

枚数：本紙を含め　3 枚